

定例記者会見資料



○日 時	平成27年4月10日(金) 13時30分～
○会 場	島根県立大学 本部棟2階 特別応接室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p>【3キャンパス共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度計画重点項目について……………〔資料1〕 ・平成27年度当初予算について……………〔資料2〕
○資料提供項目	<p>【浜田・出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度公開講座の開催について……………〔資料3〕 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEARセンター市民研究員の募集と交流懇談の集い開催について……………〔資料4〕 ・平成26年度国際交流報告書の発行について……………〔資料5〕 ・平成26年度海外企業研修報告会の開催について……………〔資料6〕
○行事予定	<p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度海外企業研修報告会……………4月17日(金) ・NEARセンター交流懇談の集い <ul style="list-style-type: none"> (第1回)……………4月18日(土) (第2回)……………5月9日(土)

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。
 なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 企画調整室 TEL 0855-24-2201
 出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200
 松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525

島根県立大学
 マスコット
 キャラクター
 オロリン



※次回の定例記者会見は 平成27年5月12日(火) 13:30から開催予定です。

平成27年度計画重点項目

◆社会情勢の変化や地域ニーズに対応した大学改革

高等教育機関を取り巻く社会情勢の変化や、地域及び時代のニーズに的確に応えるため各キャンパスにおいて、大学改革を着実に推進していく。

- 出雲キャンパスでは、平成28年度に開設する大学院看護学研究科の設置計画を着実に履行するとともに、入学定員を充足する。松江キャンパスでは、本学の将来構想（4年制化）実現に向け、県の検討状況を注視し適切に対応する。さらに浜田キャンパスでは、島根県立大学支援協議会からの要望を踏まえ、将来構想（魅力向上策）について検討する。（No.1）

◆地（知）の拠点整備事業の着実な実践

島根県立大学憲章に謳う「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」の実現を目指し、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC（Center of community）事業）」を着実に実行する。

- 「しまね地域マイスター認定制度」の開始＜教育＞、「9月連携会議」を経た「しまね地域共育・共創研究」の推進＜研究＞、遠隔講義システムを利用した公開講座の実施＜社会貢献＞など、「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業を着実に実行する。（No.46, 54）

◆学生確保、教育内容及び学生支援の充実強化

激化していく大学間競争に生き残るため、継続して学生募集活動に注力するとともに、多様化する学生に対して、小規模な本学の特性を生かし、入学から就職に至るまでのきめ細かな支援体制を構築する。また、社会的な要請である教育の質保証の観点も踏まえつつ、本学の特色を打ち出していくため、教育内容の充実を図る。

- 志願動向、入学者の学力分析を踏まえた上で、高校訪問の充実等の学生募集活動に注力する。特に、浜田キャンパスでは、新たに導入した入試制度の検証を行なう。（No.2, 3）
- 教育内容の充実を目的に、国際的に通用するGPAの導入を3キャンパスで検討する。（No.13, 24）
- 出雲キャンパスでは、平成27年4月に設置する別科助産学専攻の教育プログラム（カリキュラム）について評価を行ない、改善に繋げる。（No.16-2, 16-3）
- 学生支援の充実を目的に、よりきめの細かい学生相談体制を構築する。特に、松江キャンパスでは、支援を必要とする学生について情報共有の強化を図り、早期発見につなげる仕組みを検討する。（No.32）
- 変化する就職環境に的確に対応していくため、就職活動開始時期の後ろ倒しへの対応策やキャリア支援プログラムの検証を行う。特に、業界研究や仕事の実践的な学びの場としてインターンシップを重視するとともに、自治体ニーズの把握や「公僕学舎」の取り組み強化など公務員受験対策の充実を図る。（No.9, 10, 35）

◆国際交流、海外留学等の促進

島根県立大学憲章に謳う「北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくり」を実現するため、グローバル人材の育成に引き続き取り組む。

- 平成26年度に新設した「国際交流センター」を中心に、全キャンパスの学生が交流可能なプログラムを実施する等、国際交流事業を積極的に推進する。（No.60, 61, 65）
- 交流協定大学・研究機関の間で、NEARセンターは国際シンポジウムの開催、共同研究事業等の学術研究交流の実施を通じて一層の交流を図る。（No.60）
- 浜田キャンパスでは、学生の留学へのインセンティブを高めるため、平成27年度から海外語学研修授業として、「海外英語研修」に加えて「海外韓国語研修」を新たに開講する（No.61）
- 在学生に対して、留学情報を積極的に公開し、海外留学を促進するとともに、高校生に対しても国際交流の取組みについて情報発信を行ない、本学の特色をPRする。（No.63）



平成27年4月10日
 公立大学法人島根県立大学
 担当：財務課 錦織
 電話：0855-24-2218

平成27年度公立大学法人島根県立大学当初予算の概要

I 予算編成の考え方

公立大学法人島根県立大学は、平成19年度に3大学の統合により設立し、「島根県立大学憲章」に掲げる理念に従い教育研究の活性化及び地域貢献、国際交流等の推進に全学を挙げて取り組んできました。

平成27年度は、第2期中期計画期間（平成25年度～平成30年度）の3年目であり、これまでの取組の成果を継承し、第2期中期計画の達成に向けた取組を着実に進める年度となります。

一方で、法人運営の効率化を促す趣旨から平成27年度以後も引き続き運営費交付金の減額が継続される見込みであり、自律的な運営のための経費削減努力、効果的な事業執行、自己財源の確保等はますます必要となっています。

このため、平成27年度予算案は、平成27年度計画の重点分野（①社会情勢の変化や地域ニーズに対応した大学改革、②地（知）の拠点整備事業の着実な実践、③学生確保、教育内容及び学生支援の充実強化、④国際交流、海外留学等の促進）を中心とする同年度計画の着実な実施に必要な事業に対し、重点的かつ効果的に措置することを基本方針として編成を行いました。

II 当初予算の概要

1. 事業費総額

事業費総額は、31億40百万円で、前年度予算（32億6百万円）に比べ、2.1%減（66百万円減）となっています。

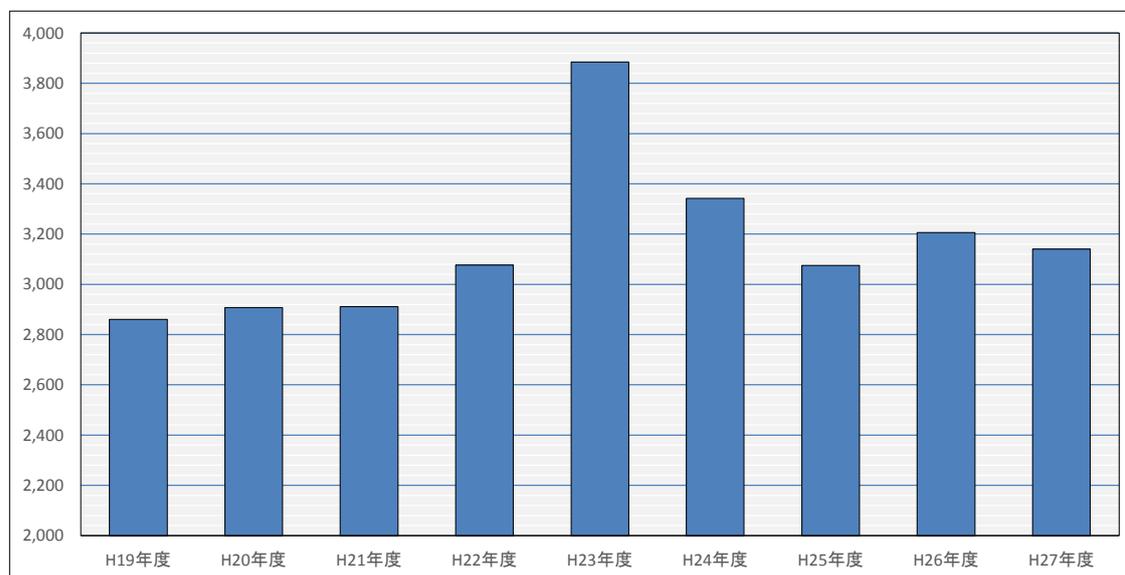
（単位：千円、%）

区 分	平成27年度当初	平成26年度当初	増 減	増減率
予算規模	3,139,717	3,206,120	▲66,403	▲2.1

【参考 当初予算規模の推移】

（単位：百万円）

H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
2,860	2,907	2,911	3,077	3,885	3,342	3,075	3,206	3,140



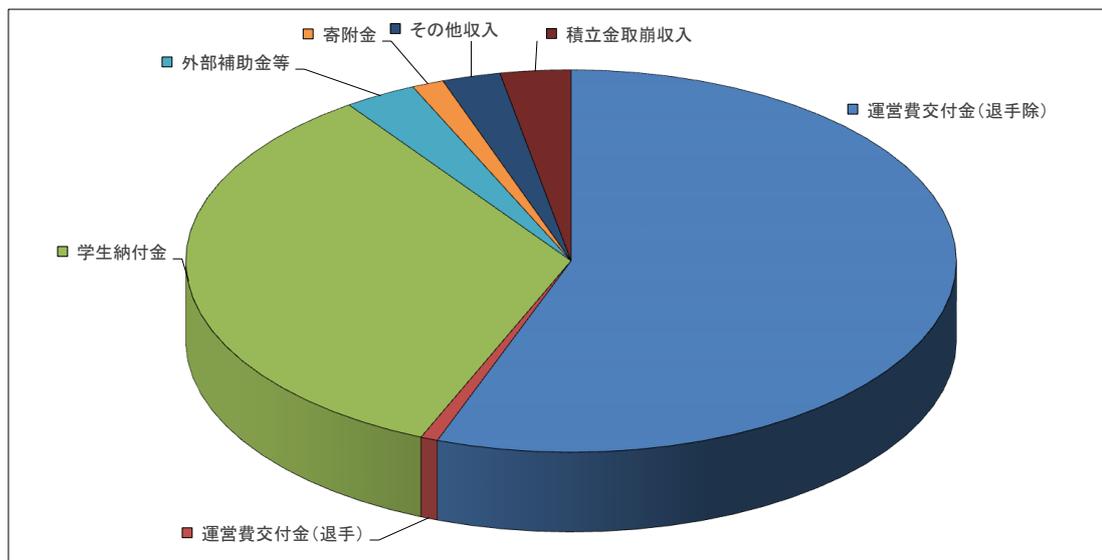
2. 収入予算

(単位:千円、%)

区 分	平成27年度当初		平成26年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金(退手除)	1,746,690	55.6	1,749,159	54.6	▲2,469	▲0.1
学生納付金	1,062,735	33.8	1,021,600	31.9	41,135	4.0
県補助金		0.0	35,154	1.1	▲35,154	皆減
外部補助金等	95,664	3.0	104,953	3.3	▲9,289	▲8.9
寄附金	42,000	1.3	43,500	1.4	▲1,500	▲3.4
その他収入	76,775	2.4	89,584	2.8	▲12,809	▲14.3
計	3,023,864	96.3	3,043,950	94.9	▲20,086	▲0.7
運営費交付金(退手)	22,853	0.7	68,248	2.1	▲45,395	▲66.5
積立金取崩収入	93,000	3.0	93,922	2.9	▲922	▲1.0
合 計	3,139,717	100.0	3,206,120	100.0	▲66,403	▲2.1

- 運営費交付金と学生納付金の合計で収入全体の89.4%を占めています。
- 運営費交付金(退職手当除き)は、効率化(▲1.0%)、標準収入の見直し等により、総額で2百万円減(▲0.1%)となっています。
- 学生納付金は、四大化した出雲キャンパスの学年進行等により、41百万増(+4.0%)となっています。
- 県補助金は、松江キャンパス2号館のエレベーター設置工事が県の直接執行により実施されることから皆減となっています。
- 外部補助金等は、文部科学省教育関係補助金等を計上し、9百万円減(▲8.9%)となっています。
- 寄附金は、島根県立大学未来ゆめ基金事業及び旧北東アジア学術交流財団寄附金事業に充てるための収入を計上し、2百万円減(▲3.4%)となっています。
- 積立金取崩収入は、前中期目標期間繰越積立金を財源として実施する事業に充てるための収入として計上し、1百万円減(▲1.2%)となっています。

※目的積立金充当事業・・・教育向上、学生支援、研究支援、学生確保、業務改善、環境整備等に資する事業



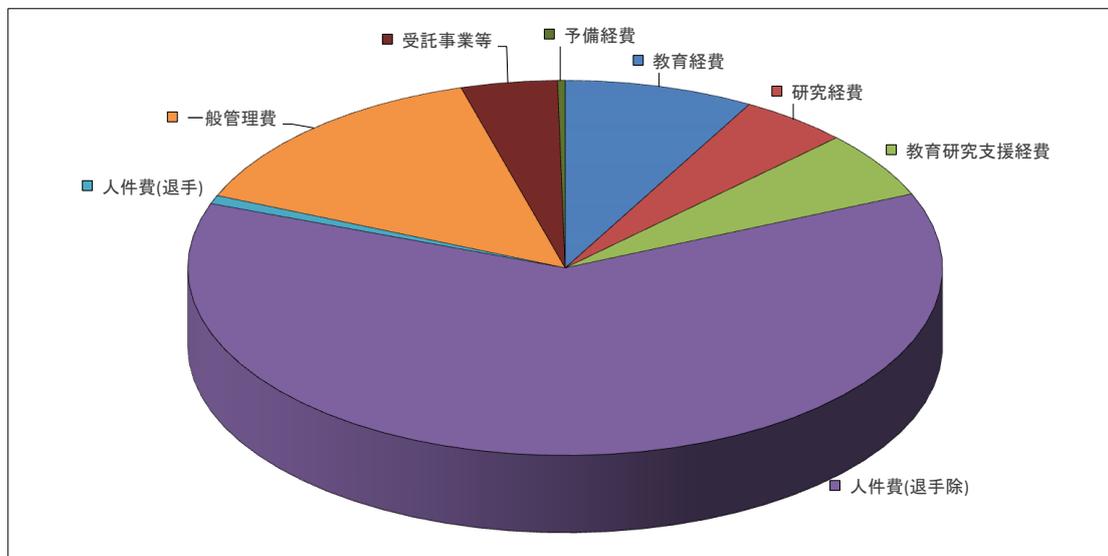
3. 支出予算

(単位:千円、%)

区 分	平成27年度当初		平成26年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
教育経費	255,039	8.1	251,921	7.9	3,118	1.2
研究経費	146,516	4.7	158,744	5.0	▲12,228	▲7.7
教育研究支援経費	180,746	5.8	160,709	5.0	20,037	12.5
人件費(退手除)	1,947,546	62.0	1,926,297	60.1	21,249	1.1
一般管理費	447,178	14.2	467,723	14.6	▲20,545	▲4.4
施設費事業		0.0	35,154	1.1	▲35,154	皆減
受託事業等	129,669	4.1	126,383	3.9	3,286	2.6
予備経費	10,170	0.3	10,941	0.3	▲771	▲7.0
計	3,116,864	99.3	3,137,872	97.9	▲21,008	▲0.7
人件費(退手)	22,853	0.7	68,248	2.1	▲45,395	▲66.5
合 計	3,139,717	100.0	3,206,120	100.0	▲66,403	▲2.1
特定財源支出除き	2,894,195		2,882,413		11,782	0.4

- 教育経費は、奨学制度経費の増等により、3百万円の増を見込んでいます。
- 研究経費は、科研費間接経費の減等により、12百万円の減を見込んでいます。
- 教育研究支援経費は、情報システムの保守管理経費の増、コンピューター機器等リース料の増等により、20百万円の増を見込んでいます。
- 人件費(退職手当を除く。)は、管理職手当支給対象者の追加(国際交流センター長、北東アジア地域研究センター副センター長)、給与改定による増、昇給及び昇格に伴う増等により、21百万円の増を見込んでいます。
- 一般管理費は、施設修繕等の減等により、21百万円の減を見込んでいます。
- 施設費事業は、松江キャンパス2号館のエレベーター設置工事が県の直接執行により実施されることから皆減となっています。
- 受託事業等は、旧北東アジア地域学術交流財団寄附金事業費40百万円を計上し、認定看護師の教育機関開設準備事業の受託による増等により、3百万円の増を見込んでいます。
- 予備経費は、年度途中の緊急的な支出に備えるため、10百万円を計上しています。
- 支出総額は、66百万円減(▲2.1%)となっていますが、特定財源による支出を除くと28億94百万円で、前年度に比べ12百万円増(+0.4%)となっています。

※特定財源：運営費交付金(退手)、県補助金、外部補助金、受託研究等収入、旧NEAR寄附金、積立金取崩収入



4. 事業概要

重点分野

1. 社会情勢の変化や地域ニーズに対応した大学改革

- | | |
|--|-----------|
| (1) 大学院（看護学研究科）開設準備事業（出雲C）〈新規〉 | 740 千円 |
| ・平成28年度開設予定の大学院（看護学研究科）の開設準備を行う。 | |
| (2) 認定看護師教育機関開設準備事業（出雲C）〈新規〉 | 13,900 千円 |
| ・平成28年度開設予定の認定看護師教育課程（緩和ケア）の開設準備を行う。
（島根県からの受託事業） | |

2. 地（知）の拠点整備事業の着実な実践

- | | |
|---|-----------|
| 地（知）の拠点整備事業（全C）〈継続〉 | 55,738 千円 |
| ・平成25年度に文部科学省国庫補助事業として採択された「地（知）の拠点整備事業」について、平成29年度までの事業期間の3年目として、計画に基づき、地域のニーズ（課題）と大学のシーズ（資源）のマッチング（＝縁結び）、3キャンパス共通科目「しまね地域共生学入門」の開講及び松江キャンパスにおける「地域志向カリキュラム」の準備等、事業を着実に推進する。 | |

3. 学生確保、教育内容及び学生支援の充実強化

- | | |
|--|-----------|
| (1) オープンキャンパスの充実（全C）〈継続〉 | 5,052 千円 |
| ・各キャンパスのオープンキャンパス開催内容の充実を図るとともに、オープンキャンパスの参加者増加に資する広報活動を集中的に実施する。 | |
| (2) 授業料奨学制度（全C）〈拡充〉 | 95,535 千円 |
| ・意欲ある学生への学修支援を行うために、経済的支援としての学修支援奨学金、入学時奨学金、成績優秀者奨学金等を学生に給付する。 | |
| (3) 公務員試験対策講座実施支援事業（浜田C）〈拡充〉 | 2,796 千円 |
| ・試験対策専門講座の実施により、公務員試験合格をめざす学生の支援を行う。
※短期集中講座開講（ガイダンス2日、夏期講座15日、春期講座3日）、チューター等謝金、WEB講座等受講料助成 | |
| (4) 就活バス運行支援事業（浜田C）〈新規〉 | 650 千円 |
| ・就職活動時期の後ろ倒し対策として県内企業が出展する就職説明会へ参加する学生の支援を行う。 | |

4. 国際交流、海外留学等の促進

- | | |
|---|-----------|
| (1) 海外留学・海外研修等に係る奨学金（全C）〈拡充〉 | 19,233 千円 |
| ・本学の特色である「国際的な視野を持った人材養成」実現のため、奨学金制度を継続・拡充し、学生の海外留学、海外研修等に対する支援の強化を図る。 | |
| ① 海外留学奨学金（浜田C） | |
| ・学長の許可を受けて協定留学（ダブルディグリー、交換留学、派遣留学）する学生に奨学金を支給する。
※新たな派遣先（ロシア海洋国立大学、ロシア極東連邦大学、中国吉林大学） ※（H26実績）16名 | |
| ② 海外研修奨学金等（全C） | |
| ・異文化理解研修、海外企業研修等に参加する学生に奨学金を支給する。 ※（H26実績）138名 | |
| (2) 海外企業研修事業（浜田C）〈拡充〉 | 3,380 千円 |
| ・グローバルに展開する企業への訪問、また学生との交流を通じて国際化の進む社会の様々な分野で活躍できる人材を育成する。
※研修先（インド、タイ） ※（H26実績）17名 | |
| (3) JCSOS緊急事故支援システム加入（法人本部）〈継続〉 | 681 千円 |
| ・学生の海外派遣に係るサポート体制を強化するため、海外派遣中の緊急事態発生時に情報収集等のサービスを提供するNPO法人海外留学生安全対策協議会(JCSOS)に加入する。 | |

※重点分野に対応する主な事業を掲載

重点広報事業

1. 地域への大学情報の発信

- (1) 法人広報誌作成(法人本部)〈継続〉 6,051 千円
・法人広報誌「オロリン」4・5号を発行し、地域へ大学情報をきめ細やかに発信する。
※発行予定(年2回) ※印刷部数(43,000部) ※配布先(県、市町村、高等学校、保護者等)

2. 受験生を対象にした情報発信

- (1) オープンキャンパス広報充実(法人本部)〈拡充〉 4,491 千円
・オープンキャンパスの参加者増加に資する広報活動を集中的に実施する。
※新聞広告(2回)、テレビCM(150本)、JR駅看板(浜田駅・出雲市駅・松江駅・米子駅)

3. 情報発信を行うための体制の強化と広報力のスキルアップ

- (1) スキルアップ研修の実施(法人本部)〈新規〉 162 千円
・教職員の広報力のスキルアップのため研修を実施する。

その他主要事業

1. 教育・学生支援

- (1) 大学院生学会発表等旅費等支援事業(浜田C)〈継続〉 950 千円
・大学院生による研究成果の発表、学会参加を奨励し学術研究を促進させるため、大学院生が学会発表、学会参加する際の旅費等を助成する。
- (2) 「島根の地域医療」フィールドワークの実施(出雲C)〈継続〉 1,543 千円
・2年次生が受講する科目「島根の地域医療」において、離島、中山間地域をはじめとする地域医療の現状を学ぶため、フィールドワークを実施する。
- (3) 「おはなしレストラン」事業(松江C)〈継続〉 8,245 千円
・絵本の読み聞かせを通じた学生の人間力育成のため、絵本文庫の運営、おはなしシェフの養成及び広く県民を対象とした読み聞かせ活動を実施する。
- (4) 学生地域ボランティア活動推進事業(全C)〈継続〉 663 千円
・学生が地域ボランティア活動等に安心して参加することができるよう、活動中の不測の事態に備えるための保険料を大学が負担するとともに、窓口機能の強化、学生との意見交換会の開催等を行い、学生ボランティア活動の推進を図る。

2. 研究

- コンプライアンス教育等経費(法人本部)〈新規〉 1,792 千円
・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」(実施基準)(平成26年2月改正)に基づき教職員に対してコンプライアンス教育等を実施する。

3. 旧北東アジア地域学術交流財団(旧NEAR財団)寄附金事業 40,000 千円

- ①北東アジア学術研究プロジェクト事業 6,200 千円
②共同プロジェクト研究助成事業 6,500 千円
③学術図書出版助成事業 2,000 千円
④研究員等招へい派遣助成事業 1,000 千円
⑤地域貢献プロジェクト助成事業 3,900 千円
⑥国際学術交流事業 3,569 千円
⑦留学生教育支援事業 15,631 千円
⑧国際文化交流促進事業 1,200 千円

平成 27 年 4 月 10 日
島根県立大学浜田キャンパス
担当：地域連携課 河部
電話：0855-24-2396

平成 27 年度公開講座の開催について（浜田キャンパス）

島根県立大学では、教育・研究における成果を広く地域社会に還元することをおして、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するため、今年度も公開講座を開催いたします。

1. 期間

平成 27 年 5 月 19 日～平成 27 年 12 月 9 日（詳細は別紙一覧表を参照）

2. 内容

全 25 講座（詳細は別紙一覧表を参照）

3. 会場

島根県立大学浜田キャンパス 講義・研究棟、およびメディアセンター
（詳細は別紙一覧表を参照）

4. 主催者

島根県立大学浜田キャンパス

5. 後援

島根県、島根県教育委員会、浜田市、浜田市教育委員会（いずれも申請中）

6. 受講料・申込方法

- ・受講料は無料です。
- ・電子メール、電話、ファクシミリ、はがきにてお申し込みください。

あて先 〒697-0016 浜田市野原町 2433-2 島根県立大学 地域連携課
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：tiiki@admin.u-shimane.ac.jp



島根県立大学 浜田キャンパス 平成27年度 公開講座

講座Ⅰ 「石見に生きる～石見の元気人が話す」

No	講師	講座名及び概要	日時	会場
1	林 千夏 (グラントワ弦楽合奏団・アンサンブルFlauce チェロ奏者)	チェロは紡ぐ～音楽のもたらす縁(え)にし～ 県西部唯一の弦楽合奏団であるグラントワ弦楽合奏団、結成7周年を迎えるフルートとチェロのアンサンブルFlauceなど、石見地方での演奏活動は、「ひと・もの・こと」との出会いを紡ぎ、10年目を迎えました。チェロとファゴットの生演奏(約25分)とともに、日々の音楽活動の中で大切にしている思いや願いについてお話しいたします。	6月6日(土) 13:15～14:45	講義・研究棟「中講義室3」
2	神 英雄 (安来市加納美術館館長)	缶コーヒー発明物語～三浦義武の生涯～ 石見の特質を明らかにする石見学の確立を提唱し続けてきた講師が、浜田市三隅町出身の三浦義武の研究に取り組んで10年。戦前にネルドリップを駆使して「美のコーヒー」を発明し、戦後は缶コーヒーを発明した三浦の波乱万丈の生涯を紹介する一方、我が国初のコーヒーを核にした町づくりの試みについてお話しします。	7月17日(金) 18:15～19:45	
3	盆子原 照晶 (NPO法人てごねっと石見理事)	住民主体によるまちづくり～観光資源化の取り組みを事例に～ 住民主体のまちづくりが叫ばれて久しいですが、住民・地域によって取り組みに対する意識レベルの差があったり、短絡的な取り組みで長続きしないものもあります。今回は2014年から、浜田市内にある鉄道遺構(広浜鉄道今福線)を活用して地域活性化を目指す取り組みを例に、住民主体によるまちづくりの課題や方向性について考えます。	9月30日(水) 18:15～19:45	
4	益田商工会議所青年部	地域の宝 萩・石見空港 ～益田商工会議所青年部による取り組みについて～ 益田市内の若手経営者・後継者で構成される益田商工会議所青年部では、市内に位置する萩・石見空港を、交通網の脆弱な当地域の経済に欠かせない存在と考え、増便を旨とした利用促進活動、存在価値をより高める活動を展開してきました。当青年部における活動を振り返るとともに、空港に対する想いについて述べます。	決定次第、大学ホームページでお知らせします	
5	安藤 達夫 (匹見ワサビ生産グループ「葵屋」)	地域資源としての匹見わさび復活とその意義について 匹見わさび復活に取り組む、その目的と地域における匹見わさびの有効性、可能性について、現在までの取り組みと今後の展開について御紹介します。1ターンしてわさび栽培、加工、営業に奮闘した7年間の取り組みです。	12月2日(水) 18:15～19:45	

講座Ⅱ 「税金から見た日本」

No	講師	講座名及び概要	日時	会場
6	大橋 達郎 (中国財務局検査監理官)	90分 de 日本の財政 急速な高齢化の進展により著しく社会保障関係費用が増加する一方で、歳入の方は昨年消費税率の引き上げが実施されましたが、国の財政は依然として借金(国債発行)に依存した厳しい財政状況が続いています。日本の財政状況を個人の家計に置き換えながら、今後の日本のあるべき姿を皆さんに考えてもらいたいと思います。	5月19日(火) 16:30～18:00	「大講義室1」 講義・研究棟
7	永田 寛幸 (広島国税局総務部長)	税務行政の現状 少子・高齢化やグローバル化が進み、社会保障給付などの増加や経済変動により国の財政がますます厳しくなる中で、税のあり方がその使い途とともに、国民一人一人にとって一層身近で重要な課題となってきています。日本の税制の現状を知っていただくとともに、国税庁の様々な取組について、皆様に理解を深めていただきたいと思います。	6月3日(水) 14:50～16:20	
8	大田 孝治 (独立行政法人国際協力機構中国国際センター所長)	税金でなぜ国際協力を行うのか？ 政府開発援助の役割 国際化の進む今日、当たり前のように考えられる国際協力について「何故？」ということを変えて考えることは重要になっていませんか？ 国際協力の理念と日本国憲法の関係、地方創生という考えの中での国際協力の役割という視点で、国際協力の意味を考えたいと思います。	6月15日(月) 16:30～18:00	「中講義室2」 講義・研究棟
9	隅田 隆之 (神戸税関浜田税関支署長)	「税関」その役割～安全・安心な社会を目指して～ 我が国の国際化が進む中で、人や物の交流は著しく増大しており、貿易の第一線にある税関の役割はきわめて重要になっています。輸出入貨物の通関、関税等の徴収、麻薬や覚醒剤、けん銃などの密輸取締りなど、水際に秩序ある貿易の発展に努めている「税関」とは？どんなところか知って、もっと身近に感じてみませんか。	6月24日(水) 14:50～16:20	「大講義室1」 講義・研究棟
10	太田 明秀 (日本年金機構浜田年金事務所 所長)	年金制度ってなんのためにあるんだろう？ 公的年金制度については、さまざまな角度から国会の場やニュース等で取りあげられ議論があるところです。当講座では、公的年金制度について下記の基本的なご説明を行い、年金制度がなんのためにあるのかをご説明し、年金について一緒に考えてみたいと思います。1. 公的年金制度の仕組みについて 2. 保険料と納付の特例について 3. 年金給付について 4. その他	7月8日(水) 14:50～16:20	

講座Ⅲ 「世界を旅する」

No	講師	講座名	概要	日時	会場
11	董 茜 (浜田市国際交流員)	中国を旅する	各国の国際交流員の方々に講師に迎え、「旅行するならここがオススメ!」というスポットや、旅行のときに使えるちょっとした会話、また、各国の文化・歴史・地理など広範な分野の中から、講師が最も皆さまに伝えたいテーマについてご紹介いたします。	6月10日(水) 10:20～11:50	「中講義室3」 講義・研究棟
12	キンバリー・モーガン (浜田市国際交流員)	イギリスを旅する		7月8日(水) 10:20～11:50	
13	ナタリア・ボルホデーワ (島根県国際交流員)	ロシアを旅する		7月15日(水) 10:20～11:50	
14	ベトナムの国際交流員 (浜田市国際交流員)	ベトナムを旅する		10月7日(水) 10:20～11:50	

講座Ⅳ 「大学へ行こう」

マスコットキャラクター
「オロリン」



No	講師	講座名及び概要	日時	会場
15	村井 洋 (浜田キャンパス)	今、平和を考える テロリズムが私たちに脅かし、大国の周辺部では紛争が激化、北東アジア地域にも国とおしのぎくしゃくした軌轢が生じている今、私たちはちょうど戦後70年を迎えます。I.カントの『永遠平和のために』をはじめとして平和（戦争）論の名著を手懸かりに平和を考えたいとおもいます。	6月3日(水) 18:15～19:45	「セメ 多 目的 演習 室」 2階
16	瓜生 忠久 (浜田キャンパス)	戦後70年 社会の動きとマス・コミ報道 ～映画・TV・新聞の動向を中心に～ 2015年は【戦後70年】だが、昨今「キナ臭い」傾向が政治・経済・社会・文化の各分野で現出し、マス・コミの姿勢も追随している感が強い。戦前の忌まわしい事態を二度と招かないためにも、いくつかの事例を紹介しつつ、その実態を注視してみたい。	6月10日(水) 18:15～19:45	講義・研究棟 「中講義室3」
17	木村 秀史 (浜田キャンパス)	ゼロからわかる資産運用入門 ～賢く財産を守ろう！～ この講座では、投資の未経験者や初心者を対象に、お金の賢い運用方法について基礎の基礎から学びます。みなさんは投資ニャンブルだと思っていませんか？それは誤解です。正しく賢い投資は長期にわたって財産を守るための強力な道具になります。株式投資や投資信託などを通じて、投資を行うことの重要性や注意点を見ていきます。	7月1日(水) 18:15～19:45	
18	飯田 泰三 (浜田キャンパス)	旧那賀郡木田村(現浜田市旭町木田)が生んだ二人の傑物 ①佐々田懋 3年前の公開講座で「石見が生んだ政治家たち」(3回)を講じたときにも、その第1回目で佐々田懋を取り上げた。幕末に尼子氏の末裔として木田の大庄屋の家に生まれ、25歳で島根県会議長となり、10年務めたのち第1回衆議院議員に島根県選出で当選。明治27年からは実業界に転じ、鉄道事業や電気事業で開拓者となった人物である。	7月8日(水) 18:15～19:45	
19	鄭 世桓 (浜田キャンパス)	ことばに関するちょっとした面白い話 ～似ているようで異なる日本語と韓国語のことばくらべ～ 初級レベルの英語学習者の中で日韓の学習者の英語は、他の国の人では理解できないものでも、日韓の学習者同士は問題なく相互コミュニケーションがとれることが多いそう。それはなぜだろうか。それには日韓語の言語的な性質を理解することによって「あ～なるほど！」になるはず。この講座では日韓語の似ている、しかし異なる言語的な話をしてみたい。	10月7日(水) 18:15～19:45	
20	久保田 典男 (浜田キャンパス)	企業の経営分析 ～フレッシュマン・フィールド・セミナーの取組から～ 経営分析とは、収益性・効率性・安全性などの観点から企業の財務諸表を定量的に分析する手法です。本講座では島根県を代表する企業を実際に分析した大学1年生向け必修科目「フレッシュマン・フィールド・セミナー」の実例から、企業の基本的な財務データを用いて、初心者にもわかるように経営分析の手法を紹介いたします。	10月14日(水) 18:15～19:45	
21	西藤 真一 (浜田キャンパス)	私たちの生活と交通：人を乗せて走る自動車 人を乗せて走る自動車といえば、真っ先に思い浮かべるのはバスやタクシーでしょう。いずれも私たちにとっては身近な乗り物ですが、同じバスにもいくつかの「種類」があります。そのほかにも、お客を乗せて走るためにはたくさんの決まりごとがあります。地域が異なれば、走る車も違う。そんな私たちの生活に根差した乗り物が走るまでを、乗り物好きの方の視点も交えてご紹介いたします。	10月28日(水) 17:45～19:45	
22	松田 善臣 (浜田キャンパス)	私たちの生活と交通：買い物弱者 日常の買い物や、生活に必要なサービスを受けるのに困難を感じている人々を指す「買い物弱者」。経済産業省の推計では全国に600万人程度いるとされ、今後さらに増加することが予想されています。買い物弱者をなくすためにはどうすればいいのでしょうか。各地で行われている支援策などを概観しながら、一緒に考えてみましょう。		
23	金野 和弘 (浜田キャンパス)	マイナンバー制度ってなんだろう？ 今年から本格的に開始される社会保障・税番号制度(マイナンバー制度)をご存知でしょうか。この講座では、マイナンバー制度の大まかな解説と、今後どのような使い方があり得るか、どのようなことが問題となりうるかについて、受講者の皆さんとともに考えてみようと思います。	11月4日(水) 18:15～19:45	
24	飯田 泰三 (浜田キャンパス)	旧那賀郡木田村(現浜田市旭町木田)が生んだ二人の傑物 ②服部之総 私が50年前、大学で日本政治外交史を学び始めたとき、最も手引きとなったのが服部之総の『明治の政治家たち』(岩波新書)だった。その服部が石見浄土真宗三大寺のひとつ木田正蓮寺の住持で、浜田中学出身であると知り、興味を覚えた。『佐々田懋翁伝』の著者でもある服部之総の人と学問について語りた。	11月11日(水) 18:15～19:45	
25	村井 洋 (浜田キャンパス)	「判断力」はいかが？ ビジネススマンは迅速な意思決定を求められ、学校の生徒は知識に加えて「判断すること」を学習目標とし、最良の伴侶を得るためにも「知恵」が必要と迫られる。このように生活のあらゆる場面に働く「判断力」という思考はどのような特徴をもつ精神作用なのでしょう。古典を繙き、現代心理学の見解からも学びながら考えます。	12月9日(水) 18:15～19:45	

※会場は各講座によって異なりますので、ご確認のうえお越しください。

平成 27 年 4 月 10 日
島根県立大学 出雲キャンパス
しまね看護交流センター
担当：管理課 安食
電話：0853-20-0220

平成 27 年度公開講座の開催について（出雲キャンパス）

島根県立大学出雲キャンパスでは、「開かれた大学」として教育・研究における成果を広く地域社会に還元するため今年度も公開講座を開催いたします。看護領域に限らず、市民のみなさんが興味・関心のある講座を多数開催いたします。お申し込みをお待ちしています。

1. 期間

平成 27 年 5 月 9 日（土）～平成 27 年 11 月 15 日（日）まで
（詳細は別添資料を参照のこと）

2. 内容・対象・募集人数

別添資料を参照のこと

3. 会場

主に、島根県立大学出雲キャンパスで開催します。（出雲市西林木町 151）
（その他の会場については別添資料を参照のこと）

4. 主催者

島根県立大学出雲キャンパス しまね看護交流センター

5. 後援

島根県・島根県教育委員会・出雲市・出雲市教育委員会

6. 受講料・申込方法

- ・受講料は無料です。（ただし、材料費等が必要な講座もあります）
- ・ハガキ・電話・電子メールなどでお申し込みください。

あて先 〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151
TEL : 0853-20-0200 FAX : 0853-20-0201
E-mail : kango@izm.u-shimane.ac.jp

平成27年度 公開講座（開催日時順）

講座番号	場所	開催日時			講師	講座名	講座内容	対象及び募集人数
		1回	2回	3回				
第1講座	玉造温泉ゆ〜ゆ(会議室)	1回	5月9日(土)	14:00～15:30	林 健司 川瀬 淑子	いきいき生活へのご提案ー骨粗しょう症と腰痛予防のお話ー	Part1. コツコツ予防ー骨粗しょう症のお話ー(担当 林) 骨粗しょう症は脳卒中やがんのようにそれ自体が命を脅かす病気ではありませんが、骨粗しょう症による骨折は、「寝たきり」につながります。本講座では、骨について正しい知識を身につけ、骨粗しょう症の予防法について学びます。 Part2. 腰痛予防と対策ー腰に優しいお話ー(担当 川瀬) 腰痛の多くは原因がはっきり特定できない、いわゆる「腰痛症」といわれるものです。本講座では、日常生活の中で誰でもできる腰痛の予防とその対策について学びます。 参加特典として、希望者に健康チェックを行います。カルシウムドリンクを準備してお待ちしております。 * 共催: 出雲市市民活動支援課(10月17日のみ)	一般 10名程度
	出雲平成温泉(洋室)	2回	10月17日(土)	14:00～15:30				
第2講座	215実習室	1回	5月26日(火)	19:00～20:30	松本亥智江 吉川 洋子 平井 由佳 岡安 誠子 川瀬 淑子	模擬患者(SP)養成講座	「模擬患者」ってご存じですか？医療者教育の中で「設定された患者」を演じる人のことです。最近は医療者教育における「模擬患者」の果たす役割が重要視されてきています。興味関心のある方であればどなたでもできますが、教育効果がある模擬患者を演じるためにはある程度のトレーニングが必要です。この講座では「模擬患者」になるためのトレーニングを行います。この講座を受講することで、受講者自らのコミュニケーションを見直す機会ともなりすし、医療者とのより良いコミュニケーションにもつながると思います。講座終了後、希望者は実際の授業に模擬患者(SP)として参加することもできます。 * 共催: しまね模擬患者の会	一般 10名 (原則として5回参加できる方)
		2回	6月23日(火)	19:00～20:30				
		3回	7月15日(水)	19:00～20:30				
		4回	9月15日(火)	19:00～20:30				
		5回	10月13日(火)	19:00～20:30				
第3講座	くすのきプラザ	1回	6月6日(土)	10:00～11:30	和田 由佳 石橋 鮎美	笑いヨガでみんないいき	「笑いヨガ」は誰にでもできる笑いの健康体操です。一度体験すると健康と活力を実感できます。最近「笑ってない」と感じている人、ストレスがたまっている人、健康にいつも笑っていた人、運動不足の人など、ぜひ笑いヨガを体験してみませんか？ リピーターの方、お子様連れ大歓迎！（親子で笑いヨガもできます）みんなで笑って過ごしましょう。 ■参加費: 100円(資料・お茶代) 当日は動きやすい服装で、上履き用の靴をご持参の上、会場にお越し下さい。	一般 20名
		2回	9月12日(土)	10:00～11:30				
第4講座	103実習室	1回	8月21日(金)	13:00～15:00	濱村美和子 狩野 鈴子 嘉藤 恵	子そだて・孫そだて 今むかし	子育て、孫育てをしている方これからされる方、またそうでない方もどなたでもどうぞ。 お産・子育ての方法や考え方は時代とともに変わってきています。最近の方法や考え方を学んで、妊娠・出産・子育て、孫育てをしていく中で、お互いに戸惑われることのないよう楽しい子育て、孫育てをめざしましょう。また、お産のりきり方のコツ、赤ちゃんのお風呂の入れ方も実際にやってみましょう。 * 共催: 出雲市市民活動支援課	子育てをする方、子育てを手伝う方(孫育てをする方)、どなたでも 15名
第5講座	215実習室	1回	9月5日(土)	14:00～16:00	松本亥智江	アロマで心と身体のリフレッシュ Part.10	生活の中にアロマセラピーを取り入れ、心と身体をリフレッシュする方法と一緒に学びましょう。 第1回: アロマを楽しむための基礎知識について 第2回: 精油を使った小物作りにチャレンジ(材料費: 200円) 第3回: 精油を使ったマッサージにチャレンジ(材料費: 200円)	一般 20名 (原則として3回参加できる方)
		2回	9月12日(土)	14:00～16:00				
		3回	9月19日(土)	14:00～16:00				
第6講座	217講義室	1回	9月10日(木)	13:30～15:00	三原かつ江 米原ゆきみ(県立中央病院 病院ボランティア“ハーモニー”代表) 松原さだ子(島根大学医学部附属病院 病院ボランティア“ひまわり”代表)	病院ボランティアの心を伝えたい	皆さんは“病院ボランティア”についてご存知でしょうか。病院を訪れたとき、声をかけたり、親切に案内をしてくれるエプロン姿の人たちです。今では、病院の玄関の顔として、なくてはならない存在となっています。病院ボランティアの方たちは無償で生き生きと活動されています。活動のきっかけや活動を始めて変わったことなど、経験談も交え、新しい世界をのぞいてみませんか。 1. 病院ボランティアとは 2. 実践者の体験談 3. 小グループでの意見交換 4. まとめ * 共催: 出雲市市民活動支援課	一般 30～40名

第7講座	217講義室	1回	9月11日(金)	10:00~11:30	三島三代子 平野 文子 別所 史恵	生活習慣病シリーズ 第1回 慢性腎臓病(別所史恵) 第2回 心臓病(三島三代子) 第3回 がん(平野文子)	生活習慣病とは、日々の生活の仕方が影響して進行していく病気で、かつては成人病と呼ばれていたものです。中高年になってから注意し始めればよいものではなく、若いうちから長い年月をかけて体をむしばんでいきます。この講座では、①慢性腎臓病 ②心臓病 ③がんについて正しく知り、毎日の生活を見直すきっかけにしていきたいとします。 * 共催: 出雲市市民活動支援課	一般 30名
		2回	9月18日(金)	10:00~11:30				
		3回	9月25日(金)	10:00~11:30				
第8講座	215実習室	1回	10月3日(土)	10:30~12:00	林 健司 茂富 良太(雲南 市立病院 感染管理 認定看護師)	インフルエンザの予防 と対策	「インフルエンザ」は誰もが耳にするとても身近な病気です。しかし正確に予防や対策がとれている方は極めて少数です。本講座では、受講生の皆様にインフルエンザに関する正しい知識や予防法を身に付けていただき、来るインフルエンザシーズンを元気に過ごしていただくためのお手伝いを講師がいたします。手洗い演習では「手洗いチェッカー」を使用し、手洗いの後の洗い残しを調べてみます。 * 共催: 出雲市市民活動支援課	一般 10名
第9講座	上津コミュニティセンター	1回	11月6日(金)	13:30~15:00	吾郷ゆかり 阿川 啓子 伊藤将寛(ハートビ ア出雲 いずも福 祉用具ブラザ)	在宅介護を助けてくれるもの と人々 ~これから在宅介護を始める ひとのために~	これから在宅療養を始められる方、家で介護をされる方のために介護準備のための住宅改修のポイントや便利な福祉用具などの紹介をします。環境整備のための耳寄り情報や福祉用具など実際に手に取って体験できます。また、在宅医療の必要な方、在宅介護サービスを利用するための心構えなどをクイズ形式で一緒に考えていきます。なお、応募多数の場合は先着順とさせていただきます。 * 共催: 出雲市市民活動支援課	一般 10~25名
	今市コミュニティセンター	2回	11月7日(土)	10:00~11:30				
第10講座	いずも子育て支援センター	1回	6月21日(日)	10:00~12:00	長島 玲子 井上 千晶 吉川 憂子	先輩パパ・ママ&赤ちゃんに学ぼう! -初めての妊娠・出産・子育て-	【プレパパ・ママ】 初めての出産の前は、赤ちゃんを迎える喜びと共に不安もいっぱい。そんなプレパパ&ママが安心して出産育児を迎えられるよう、赤ちゃんが「先生」になって教えてくれる講座です。講話と実技30分(安産のために夫婦で取り組む生活の工夫)の後は、「赤ちゃん」とご両親と交流し、先輩の体験談を聞いたり、抱っこやおむつ交換の体験をさせていただきます。「赤ちゃん」が“不安”を“笑顔”に変えてくれる講座です。 【先輩パパ・ママ】 前半「赤ちゃんを笑顔にする遊び」を親子で一緒に楽しみ、後半はプレパパ・ママと交流します。あなたの赤ちゃんの温もりや可愛らしさには、プレパパ・ママの不安を解消する大きな力があります。また、あなたのリアルな育児体験も、身近で貴重なアドバイスになります。自分や赤ちゃんの存在が誰かの役に立って本当に嬉しい!「明日からまた育児を頑張ろう!」そんな気持ちになれる講座です。 * 共催: 出雲市男女共同参画センター	【プレパパ・ママ】 初めて親になる妊婦と夫 5~6組
	川跡コミュニティセンター	2回	11月15日(日)	10:00~12:00			【先輩パパ・ママ】 3~7カ月の乳児と両親 10組程度	
第11講座	大講義室	1回	6月10日(水)	13:10~15:00	戸枝 陽基(とくだ ひろもと、平成27 年度客員教授、 NPO法人ふわり並 びに社会福祉法人 むそう理事長) 山本 順久(やま もとよりひさ、社 会福祉法人創文会 ハートピア出雲施 設長)	子どもの在宅支援を促進する医療-福祉の連携	重度の医療ケアが必要な子どもたちが全国に2万人くらいいらるだろうといわれています。その中には地域に社会資源があれば退院できる子どもたちが沢山います。戸枝氏にはNPO法人ふわり、社会福祉法人むそうでの取り組みから「障がいのある子どもたちが自分らしい暮らしを、暮らしたい地域で継続できること」をめざした地域づくりの実践を講演していただきます。山本氏には出雲市における障がいのある子どもたちの在宅生活支援の実践を講演していただきます。両氏の講演から、必要な人へ必要な場所で必要な支援が提供できるコミュニティをどのようにして創っていくかを考えます。	本学学生・教職員 障がい児に関わる保健・医療・福祉に従事する者 一般市民 200名

NEAR センター市民研究員の募集 及び NEAR センター交流懇談の集いの開催について

島根県立大学では、平成 27 年度「北東アジア地域研究センター市民研究員」を募集しています。

「北東アジア地域研究センター市民研究員」制度は、本学の北東アジア地域研究センター（NEAR センター）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、NEAR センターの研究活動の活性化並びに大学院教育の充実を図ることを目的として、平成 18 年度に創設したもので、全国的にも珍しいユニークな制度です。また、研究を通じて本学の地域貢献活動の一翼も担っていただいております。

この「北東アジア地域研究センター市民研究員」の概要等を説明させていただくことを主旨として、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成 27 年 4 月 18 日（土） 13：00～16：00
*平成 27 年 5 月 9 日（土）13:00～16:00 に第 2 回を予定しています。
第 1 回に参加出来なかった方もご参加できます。
2. 場 所 島根県立大学交流センター 1 階 研修室
3. 内 容（予定）
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）についての概要説明
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）市民研究員制度説明
参加者の自己紹介
前年度市民研究員登録者の体験談
4. その他 入場無料
参加申込書による申込が必要です。

※本内容については本学ホームページ（下記リンク先参照）にも掲載しています。

<http://hamada.u-shimane.ac.jp/research/organization/near/>

以上

《NEAR センター交流懇談の集い》を開催！ 《NEAR センター市民研究員》を募集！

- 市民のみなさんの興味と知識を通じて研究センターで交流しませんか？
- NEAR センター市民研究員にぜひご登録ください。
- 2つのサロン（研究グループ）で共同研究／勉強会／読書会などを行っています。
- 市民研究員・大学院生・NEAR センター研究員・教員と共同研究に取り組むこともあります。

4月18日

・第1回NEARセンター交流懇談の集い

- ・どなたでもご参加になれます（要申込）。市民研究員への登録前のお試しに。
- ・会合の前に昼食会も開催します（要申し込み。下記参照）。
- ・まずは市民の仲間、大学院生、NEARセンター研究員、本学教員と懇談。
- ・大学院生との共同研究マッチングも始まります。

5月9日

・第2回NEARセンター交流懇談の集い

- ・どなたでもご参加になれます（要申込）。引き続き、市民研究員登録前のお試しに。
- ・大学院生との共同研究マッチングも本格化。

5月16日

・2015年度NEARセンター市民研究員 第1回全体会

- ・市民研究員にご登録の方を対象と致します（要申込）。
- ・大学院生との共同研究申請をご希望の方は、必ずご参加ください。
- ・《グループ・リサーチ・サロン》で大学院生との共同研究マッチング完了予定。

「北東アジア地域研究センター市民研究員制度」のご説明をかねて、《NEAR センター交流懇談の集い》を下記の通り開催いたします。どなたでもご参加になれます（要申込）。

記

○と き 第1回 2015年4月18日（土）13:00～16:00
第2回 2015年5月 9日（土）13:00～16:00

○ところ 島根県立大学浜田キャンパス 交流センター1階 研修室

○次 第 NEAR センター長挨拶、NEAR センター概要・市民研究員制度説明、参加者自己紹介、市民研究員の体験談など

* 第1回は12:00から昼食会を行います（会費¥1,000 当日頂きます）。ご参加ください。

○お問い合わせ 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2

島根県立大学事務局企画調整室

TEL. 0855(24)2201; FAX. 0855(24)2208; E-Mail:kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

**NEAR センター交流懇談の集い
参加申込書**

※ 以下の事項にご記入の上、郵送または FAX にてお送りください。

◇ 郵送先：〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2

島根県立大学浜田キャンパス企画調整室 市民研究員係

◇ FAX：0855-24-2208

※ 資料準備の都合上、誠に恐縮ですが、第1回は4月15日（水）までに、第2回は5月7日（木）までにご連絡頂きますようお願い致します。

※ 住所・電話番号・E-Mail アドレスを除くお名前、あなたの興味、取り組んでみたい研究については「第1回 NEAR センター交流懇談の集い」の際に参加者の皆様に資料として配布することとしていますので、あらかじめご了承ください。

・NEAR センター交流懇談の集いに参加します。（※参加を希望される回に○をつけてください。両日参加も可能です。）

第1回
《4月18日（土）開催》

第2回
《5月9日（土）開催》

お名前

ご住所（〒 - ）

電話番号：

E-Mail：

昼食会（会費¥1,000円） 参加する 参加しない

北東アジアや島根県、山陰地方に関するあなたの興味をご自由にお書きください。

上記に関し取り組んでみたい研究をお持ちの方はご自由にお書きください。

《2015年度 NEAR センター市民研究員 第1回全体会》を下記の要領で開催します。

大学院生との共同研究申請をご希望の方は、「市民研究員登録」をお済ませの上、ご出席くださいますよう、お願い申し上げます。

記

○と き 2015年5月16日(土) 13:00～16:00

○ところ 島根県立大学浜田キャンパス 講義・研究棟1階 中講義室4

○次 第 NEAR センター長挨拶、NEAR センター研究員自己紹介、市民研究員自己紹介、大学院生自己紹介、記念撮影、アカデミック・サロン、グループ・リサーチ・サロンのグループ分け及び共同研究のマッチング、施設案内(希望者)

○お問い合わせ 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2

島根県立大学事務局企画調整室

TEL. 0855(24)2201

FAX. 0855(24)2208

E-Mail: kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

----- キ リ ト リ -----

NEAR センター市民研究員 第1回全体会

参加申込書

※ 以下の事項にご記入の上、郵送または FAX にてお送りください。

◇ 郵送先: 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2

島根県立大学浜田キャンパス企画調整室 市民研究員係

◇ FAX: 0855-24-2208

※ 資料準備の都合上、誠に恐縮ですが、5月13日(水)までにご連絡頂きますようお願い致します。

※ この全体会は、市民研究員にご登録なさる方にご参加いただくものです。別紙「平成27(2015)年度市民研究員登録申込書」に必要事項をご記入の上、上記住所にご郵送ください。「市民研究員登録申込書」は全体会当日にご持参いただいても結構です。

《NEAR センター市民研究員 第1回全体会》に参加します。

○ お名前

○ ご住所(〒 -)

電話番号:

E-Mail:

北東アジア地域研究センター市民研究員について

1 市民研究員制度とは？

本学の北東アジア地域研究センター（NEAR センター）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、NEAR センターの研究活動の活性化並びに大学院教育の充実を図ることを目的として、平成18年度から創設したもので、全国的にも例のないユニークな制度です。平成23年度からは、新たに市民研究員代表委員会を中心とした「市民研究員グループ・リサーチ・サロン」を制度に盛り込み、名実とともに市民研究員主体の交流・研究活動の集いとしての制度に生まれ変わりました。なお、〈北東アジア地域〉とは、日本およびロシア極東、モンゴル、中国大陸・台湾、朝鮮半島を含む地域のことを意味しています。

2 市民研究員の応募資格は？

市民研究員には、「北東アジア地域の総合的研究、島根を中心とする地域政策関連の研究、本学の学術研究活動の発展に貢献する意欲」のある方であればどなたでもご応募できます。

3 市民研究員は何をするか？

NEAR センターでは、日本を含む北東アジア地域に関する研究を行っています。

市民研究員は、このセンターに所属して、興味のあるテーマについて自ら研究活動に取り組んでいただきます。またNEAR センター研究員や本学大学院生との研究交流を通じて、互いに知的刺激を及ぼし合っていただくとともに、共通の関心分野について共同研究に取り組んでいただきます。

4 市民研究員の特典

(1) 市民研究員全体会の開催

「市民研究員全体会」は、NEAR センター市民研究員制度の研究母体であり、NEAR センター市民研究員、NEAR センター研究員（島根県立大学教員・NEAR センター嘱託助手）、大学院生で構成された研究組織です。また、「市民研究員グループ・リサーチ・サロン」（下記（2）参照）の総括的な議論の場でもあります。ここでは、市民研究員による研究報告会、市民研究員と大学院生による共同研究報告会などを行います。今年度は全体会を計3回、研究会を計2回の開催を予定しております。

(2) 市民研究員グループ・リサーチ・サロンの開催

「市民研究員グループ・リサーチ・サロン」は、市民研究員が主体となって研究グループを組織し、関連する領域の共同研究や情報交換、NEAR 研究員・大学院生と密度の濃い学術交流を行うための集いです。今年度は「北

東アジア地域の歴史と文化」、「北東アジア地域の現代的課題」の2つの研究グループがあります。

(3) 研究会等への参加

NEAR センターが主催する各種研究会、国際シンポジウム等に参加することができます。

(4) NEAR センター図書・資料室の利用

約1万冊の北東アジア地域研究に資する図書・資料、約100種の北東アジア地域で刊行されている雑誌を蔵する「NEARセンター図書・資料室」を利用することができます(月～金曜日 9:00～17:00)。

(5) メディアセンターの利用

図書約7万冊、雑誌250種類以上、新聞、視聴覚資料などをそろえた「島根県立大学メディアセンター(図書館)」を利用することができます。ご利用いただけるサービスは、資料の閲覧、複写(有料)、貸し出し(3冊2週間以内)、インターネット(別途手続きが必要)・視聴覚資料・電子資料・マイクロ資料の閲覧、レファレンスです。(購入希望図書のリクエストやパソコン相談、相互貸借はご利用いただけません。)詳しい利用案内は、

<http://hamada.u-shimane.ac.jp/campus/library/> をご参照ください。

(6) 刊行物の配布

『学報』、『NEAR News』(ニューズレター)、その他の刊行物が無料配布されます。

(7) 市民研究員「年度末報告書」(ワーキングペーパー)の作成

市民研究員制度の活動実績、市民研究員・院生・教員個々の研究成果をまとめた「年度末報告書」(ワーキングペーパー)を定期的に作成する予定です。皆様の独創的な研究成果をお寄せくださるよう期待しております。

5 大学院生との共同研究

NEAR センター市民研究員は、共通する関心分野について、本学大学院北東アジア開発研究科の大学院生及び教員と研究チームを作り、共同研究を行うことができます。これは大学院生に普段の大学院教育では得難い北東アジア地域、開発研究に対する「市民の目・興味」に触れ、市民研究員とともに日本を含めた近隣の北東アジア地域調査に出かけ、また関連の研究を行っている研究者との研究会を開くなどを通じて、新鮮な知的刺激を受けて研究者として成長してもらおうという取り組みです。

6 謝金、旅費等の支給について

「全体会」や「グループ・リサーチ・サロン」など通常の活動については、旅費、謝金などは支給しません。自主的な参画をお願いします。

研究費については、上記5の大学院生との共同研究で採択を受けたものに

限り、その活動費（旅費や文献購入費など）に対して助成が行われます。

7 市民研究員への登録手続き

- (1) 別添の登録申込書を下記の送付先へ（お手数ですが更新の方についても必ず）ご提出ください。なお、募集は通年で行っておりますが、大学院生との共同研究への申請を希望される方については、**5月16日（土）**までにご提出ください。

※送付先：〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
島根県立大学事務局企画調整室

- (2) 今回の任期は、平成28年3月31日までとなりますが、次年度以降更新が可能です。

島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEARセンター）
平成 27（2015）年度 市民研究員登録申込書

島根県立大学長 本田 雄一 様

島根県立大学北東アジア地域研究センター市民研究員登録を、
[新規 継続] 申込みます。

申込日 : 年 月 日

ふりがな

お名前 : 印

【重要】[申込み〆切について]

登録は通年で受け付けておりますが、大学院生との共同研究への申請を考慮しておられる方は、5/16（土）までに、登録申込書をご提出ください。期日までに登録申込書の提出がない場合、共同研究への申請はできませんので、ご注意ください。

《北東アジア地域研究センター市民研究員制度》ご登録にあたってのお願い

本制度では、市民研究員の方に、それぞれのお立場から市民研究員相互・院生の研究に刺激を与えてくださることを期待しております。あなたの得意分野、研究関心、院生にたいして市民ならではの視点やご経験から刺激を与えることができると思われる事柄を下欄にご自由にお書きください。また、2つのグループ・リサーチ・サロンのうち、所属して活動してみたいサロンのチェック欄に印をつけて下さい（複数選択可）。

＜グループ・リサーチ・サロンのテーマ＞

北東アジア地域の歴史と文化（史資料（古文書）発掘・解読、北東アジアの言語、宗教など）

北東アジア地域の現代的課題（北東アジア諸国の経済関係・企業活動・外交・環境問題・福祉・人的交流など）

（→裏面もご確認ください）

*** 継続して申込みをされる場合には、以前の申込内容と変更がある箇所のみ、ご記入をお願いします。但し（注）については必ずご確認ください、必要に応じてチェック欄に印をお願いします。**

(2015年4月1日現在)

ふりがな 氏名			
生年月日(年齢)	(西暦) 年 月 日 (満 歳)	性別	男・女
現住所	(〒 -)		
連絡電話番号	() -	F A X	() -
勤務先			
E-mail			
得意とする分野等			
これまでの社会に対する活動等 (職歴・奉仕活動・地域での活動など)			
年 月	事 項		

※ここに記載された個人情報については市民研究員制度に係る事業について北東アジア地域研究センター及び島根県立大学事務局により管理を行います。

(注) 記載された情報【住所・電話番号・メールアドレスの個人情報】について市民研究員全体会の案内及び北東アジア地域研究センター各種資料の送付、その他本学に関する事業についての連絡、資料送付等に使用することに同意したものとします。

また、以下について登録申込書への記載情報の提供ができないものについてチェック欄に印をつけてください。

- 大学院生・NEAR 研究員 (大学院生・市民研究員・NEAR 研究員の共同研究事業に使用します。)
- 市民研究員代表委員 (グループサロン・その他市民研究員間の交流等に使用します。)

北東アジア地域研究センター市民研究員のイメージ

北東アジアに興味あり

市民の皆さん

地域の研究に興味あり

NEARセンター市民研究員

市民研究員に登録すると...

- ・市民研究員全体会参加
- ・グループ・リサーチ・サロン参加
- ・NEARセンターの各種研究会参加
- ・メディアセンター(図書館)利用
- ・学内刊行物各種贈呈
- ・研究成果を年度末報告書に掲載などの機会をご提供

NEARセンター市民研究員

市民研究員は何をするの？

- ⇒研究・交流活動を展開します
- ☆市民研究員全体会、グループ・リサーチ・サロンに参加ください
 - ☆市民研究員相互に、またNEARセンター研究員や本学教員、大学院生たちと北東アジアや地域の課題などを話題に気軽に語り合しましょう



交流懇談の集い

(27年度は2回開催予定)

第1回 H27.4.18/第2回 H27.5.9



全体会 (27年度は計3回の開催を予定)

市民研究員研究会(27年度は計2回の開催を予定)



大学院生



NEARセンター
研究員・教員

院生・研究員・教員と
関心分野で意気投合！

共同研究グループ
を作ってください

6月8日までに共同研究計画
書をご提出ください

選考・採択

共同研究経費の一部を助成します

フィールドワークや
文献調査

たとえば、
この助成金で
グループで活動

北東アジア地域へ
研究調査

市民研究員が相互に
関心分野で意気投合！

2つのサロン(研究グループ)で
共同研究？勉強会？読書会？
茶話会？.....etc.

グループ・リサーチ・サロン

研究資金獲得の助走	地域への政策提言	個人研究の深化	成果発表会	年次報告書
-----------	----------	---------	-------	-------

連携

☆共同研究グループには市民研究員の中から共同研究に参画していただき市民の立場からの知識を院生に与えることで、大学院教育にご協力頂きます。今年度末(3月)に共同研究の成果をご報告頂きます。(グループ構成:市民研究員+院生+研究員・教員)

☆各研究グループには、今年度末(1月)に活動の成果をご報告頂きます。また、この際には従来通り個人の発表も受け付けます。

平成27年4月10日

島根県立大学浜田キャンパス

担当：国際交流課 無津呂美保

電話：0855-25-9063

平成 26 年度国際交流報告書の発行について

この度、本学各キャンパスで実施している国際交流事業等にかかる報告書を作成しました。

この報告書は、本年度実施した様々な国際交流事業の様子を紹介しています。

主な内容：

- ・海外大学との交流の様子（訪問・受入）
- ・短期日本語・日本文化研修
- ・内閣府国際交流事業への学生派遣
- ・海外企業研修（インド、タイ）
- ・国際合同シンポジウム
- ・異文化理解研修（中国、韓国、ロシア、アメリカ）



平成 26 年度
国際交流報告書

平成26年度 年間行事

全キャンパス

月	日付	国	内容	ページ
5	5/10~17		韓国・大邱韓医大学校韓国文化研修	1
6	6/30~7/11		夏期日本語・日本文化研修	2,3
8	8/4~22		韓国・培材大学校サマースクールに参加	4
	8/28		内閣府国際交流事業	5
9	9/7~13 2/22~28	 	海外企業研修（インド） 海外企業研修（タイ）	6
10	10/10		蔚山大学校交流協定締結 20 周年事業シンポジウム	7
1	1/27~2/14		冬期日本語・日本文化研修	8,9
3	3/6		台中科技大学 学長訪問	10

浜田キャンパス

月	日付	国	内容	ページ
4	4/11		ロシア海洋国立大学訪問	10
5	5/23		ワールド地連カフェ開催	11
6	6/16		ハワイ大学 来学	11
	6/27		カザン連邦大学 来学	12
8	8/1~30		異文化理解研修（ロシア・ウラジオストク）	12
	8/2~30		異文化理解研修（中国・北京）	13

8	8/2~9/1		異文化理解研修（アメリカ・モンレー）	13
	8/3~27		異文化理解研修（韓国・蔚山）	14
	8/26~28		中国・寧夏大学訪問団 来学	14
9	9/11		安徽財経大学 訪問	15
11	11/1		東北師範大学シンポジウム	15
	11/27		インド・AIMS 訪問団 来学	16
12	12/11		オーストラリア・グリフィス大学訪問団 来学	17
	12/17		第 14 回 国際文化交流のタベ	18,19
	12/20		韓国文化祭 in はまだ	19
1	1/14		海外体験報告会	20
2	2/22~3/22		異文化理解研修（アメリカ・ハワイ）	20

出雲キャンパス

月	日付	国	内容	ページ
8	8/19~31		異文化理解研修（アメリカ）	21
	8/19~24		異文化理解研修（韓国）	22

松江キャンパス

月	日付	国	内容	ページ
5	5/14		アメリカ・南ユタ大学の学生と交流	23
8	8/6~8/25		海外語学研修（アメリカ）	24
8	8/22~8/29		アジア文化演習 A（韓国、中国）	25

本学では、短期海外留学や長期留学、海外からの留学生の受け入れ、その留学生と本学学生との日常的な交流など、国際人としての素養を身につける幅広い取り組みを行っています。

短期研修

全キャンパス

韓国・大邱韓医大学校韓国文化研修

平成26年5月10日～17日の約1週間、世界各国から集まった学生と一緒に韓国語や韓国文化について学ぶ韓国・大邱韓医大学校韓国文化研修が開催されました。本学からは松江キャンパス1名、浜田キャンパス1名の計2名が参加しました。

- 【一日目】キャンパスツアー（サポーターとの出会い）／韓国語講座
- 【二日目】茶道体験／蓮（ハス）作り／瞑想
- 【三日目】伝統扇作り／サムルノリ／日本語学科の学生との交流
- 【四日目】世界仮面博物館／ハフェ町観光
- 【五日目】薬令土博物館



▲ドンファ寺



▲伝統楽器 サムルノリ演奏

【学生からの声】

- ・今回のプログラムに参加して本当に良かったと思います。韓国語だけでなく英語の必要性を感じるが多かったです。
- ・今回のプログラムは7カ国の国の学生が参加していたので、生まれて初めて会う国の学生などと会えて交流できて良かったです。そして自分のがんばらなくてはいけない部分や自分の韓国語の能力も試せたのでとても良かったです。本当にこのプロジェクトに参加できて、勉強になり楽しかったです。



夏期日本語・日本文化研修 2014

平成 26 年 6 月 30 日～7 月 11 日の約 2 週間、ロシア国立研究大学高等経済学院、柳韓大学校、蔚山大学校、安徽財經大学、台中科技大学の 5 大学から 11 名の学生を受け入れ、「島根県立大学 夏期日本語・日本文化研修」を実施しました。



【日程】

6/27～29	入寮
6/30	開講式、学長表敬、日本語授業、学生交流、歓迎会
7/1	日本語授業、日本文化体験授業（石見神楽）
7/2	日本語授業、学生交流（茶道）
7/3	広島視察
7/4	日本語授業
7/5	出雲視察、出雲キャンパス交流、ゴーストツアー
7/6	松江視察、料理交流会
7/7	書道体験、松江キャンパス交流
7/8	松江視察
7/9	高校訪問（津和野高校）
7/10	講義体験、日本語授業、学生交流
7/11	江津視察（風の国）、市民交流（美川公民館）、送別会

【研修生からの感想】 ※研修生の言葉を原文に近い形で掲載しております。

- ◆この研修プログラムに参加できて、すごく嬉しかったです。2週間はあまり長くない時間です。けれども、この間はすごく楽しかったです。そして、先生方と学生の皆のおかげで、日本語がもっと上手になったと思いますし、日本がもっともっと大好きになりました。
- ◆本当に楽しかったです。日本語も勉強したし、他の国の友達もできたし、すごくうれしかったです。日本は初めてだったので、来る前にいろいろ不安がありましたが、先生も学生もみんなやさしい人だったので、安心しました。よかったですと思います。時間がもっと長ければ良かったと思います。
- ◆忘れられない思い出がいっぱい作れて、新しい友達との出会い、そして、一期一会という言葉の意味がもっと深く感じました。これからは人と人との出会いを大切にしたいと思います。
- ◆韓国と日本を繋ぐ架け橋として頑張っていきます。

韓国・培材大学校サマースクール

平成 26 年 8 月 4 日～22 日の約 20 日間、世界各国の大学から約 200 名の学生が参加する大規模なサマースクールが開催されました。本学からは松江キャンパス 1 名、浜田キャンパス 2 名の計 3 名が参加しました。

【プログラム内容】キャンパスツアー／韓国語授業／体育会／フィールドトリップ／文化体験／フェアウェルパーティー



▲韓国学



▲テコンドー



▲体育会



▲ウォーターパーク



▲チマチョゴリ



▲フェアウェルパーティー

【学生からの声】

- ・私は生涯を通していろんな国に行き、いろんなもの見ていきたいという理由で参加しました。この研修では韓国についてや、それ以外でもいろいろなことを知り、得るものがたくさんありました。
- ・研修の締めくくりであるディナーパーティーでは、みんなと別れるのが辛く、大泣きしながら撮った写真もたくさんありますが、それほど、この 3 週間の研修は濃いものであったということです。来年は私たちのレポートを見て研修に参加してくれる人が増えたら嬉しいです。

内閣府青年国際交流事業

日本と世界各国の青年との交流を通じて、広い国際視野と国際協調の精神を養い、国際化の進む社会で活躍できる青年の育成を目的に内閣府が行う事業です。事業内容には、国際青年育成交流、日本・韓国青年親善交流、東南アジア青年の船などがあり、本学の学生が毎年積極的に参加しています。

平成 26 年度は、本学の学生 2 名が、日本代表青年として派遣されました。

【壮行式の様子】 8 月 28 日



【現地での様子】

国際青年育成交流（ドミニカ共和国）〈9月6日～9月23日〉



日本・韓国青年親善交流事業〈9月11日～9月25日〉



【報告会・説明会の様子】 報告会：1 月 14 日、説明会：2 月 10 日



海外企業研修

インド・タイの企業や大学を訪問し、それぞれの国の経済状況を肌で感じ、現地の大学生との交流を通じて、国際的視野の獲得と国際協調の精神を養いながら、自分の将来を考えるきっかけとなりました。

【インドコース】

期 間 平成26年9月7日～9月13日

参 加 学生10名、引率者5名

訪問先 6企業、3大学



【タイコース】

期 間 平成27年2月22日～2月28日

参 加 学生7名、引率者5名

訪問先 6企業、2大学・学校



蔚山大学校交流協定締結 20 周年事業シンポジウム

平成 26 年 10 月 10 日浜田キャンパスにおいて、本学と蔚山大学校との交流協定締結 20 周年を記念して合同国際シンポジウムを開催致しました。李哲蔚山大学校総長の基調講演をはじめ、蔚山大学校を紹介するビデオ上映、両大学 2 名ずつの研究者による報告が行われました。

シンポジウムには、地域の皆様をはじめ本学の在学生・教職員など 200 名以上の来場がありました。

【出雲キャンパス訪問】



▲出雲キャンパス訪問



▲出雲キャンパス協議



▲出雲視察

【交流協定 20 周年記念式典】



▲記念式典



▲学術交流協定締結



▲集合写真

【合同国際シンポジウム】



▲本田学長あいさつ



▲李哲総長記念講演



▲魯成煥教授



▲井上厚史教授



▲許英蘭副教授



▲福原裕二准教授



▲質疑応答



▲会場の様子

冬期日本語・日本文化研修 2015

平成 27 年 1 月 27 日～2 月 14 日の約 3 週間、安徽財經大学、華僑大学、培材大学、蔚山大学校、台中科技大学の 5 大学から 11 名の学生を受け入れ、「島根県立大学 冬期日本語・日本文化研修」を実施しました。

			
▲開講式	▲昼食交流会	▲歓迎会	▲石見神楽授業
			
▲日本語授業	▲夜神楽鑑賞	▲スケート	▲広島視察
			
▲学生交流	▲紙漉き体験	▲中学校訪問	
			
▲箸作り	▲交流会	▲出雲キャンパス交流	▲出雲視察
			
▲松江キャンパス交流	▲松江視察	▲食文化交流会	▲閉講式

【日程】

1/25~26	入寮
1/27	開講式、学長表敬、日本語授業、学生交流、歓迎会
1/28	日本語授業、日本文化体験（紙漉ぎ）
1/29	講義体験、日本語授業
1/30	日本語授業
1/31	学生交流、夜神楽鑑賞
2/1	自由
2/2	日本語授業、学生交流（銭太鼓）
2/3	講義体験、日本語授業、学生交流（節分）
2/4	日本文化授業（石見神楽）、日本語授業、学生交流（茶道）
2/5	日本語授業、アクティビティ（スケート）
2/6	日本語授業、学生交流（ミニチュアパフェ作り）
2/7	広島視察
2/8	自由
2/9	日本語授業、中学校訪問（鎌手中学校）
2/10	江津視察（風の国）、交流会
2/11	出雲視察、出雲キャンパス交流
2/12	着付け体験、松江視察
2/13	交流懇談会、松江キャンパス交流、松江視察
2/14	食文化交流会、閉講式

【研修生からの感想】 ※研修生の言葉を原文に近い形で掲載しております。

- ◆本当にいろいろありがとうございました。すごく楽しかったです。この3週間に体験したことは自分の一生の宝物です。日本語だけではなく、他の国の言葉もたくさん覚えて本当によかったと思います。友達もたくさんできました。今回の研修のお陰です。
- ◆今回の研修は、とても有意義だったと思います。いろいろ勉強になりました。帰国した後、もっと勉強して、今回の研修で得たものを今後の生活、仕事に生かしたいと思っています。
- ◆今回の研修では、たくさんの人の前で自信を持つようになりました。本当に良かったです。またこのような機会がありましたら参加したいです。ありがとうございます。

台湾・台中科技大学訪問

平成 27 年 3 月 6 日に、本田学長、小林明子国際交流センター長、事務局職員が台湾・台中科技大学を訪問しました。双方の大学の学生交流の発展をテーマに会談し、今後の学生交流プログラムについて、有意義な協議をすることができました。



ロシア海洋国立大学を訪問

平成 26 年 4 月 11 日に、小林明子国際交流センター長と事務局職員がロシア海洋国立大学を訪問しました。双方の大学の学生交流の発展をテーマに会談し、今後の学生交流プログラムについて、有意義な協議をすることができました。



ワールド地連カフェ開催

平成 26 年 5 月 23 日に、JICA（独立行政法人国際協力機構）・しまね国際センター・本学事務局地域連携課・国際交流課が合同でイベントを開催しました。各機関の事業説明のあと、留学生と日本人学生の交流の場となりました。

【事業説明の様子】



【交流の様子】



ハワイ大学 学長表敬

平成 26 年 6 月 16 日に、ハワイ大学から Janice Uchida 先生が浜田キャンパスに来学されました。双方の学生交流の発展をテーマに会談しました。



ロシア・カザン連邦大学 学長表敬

平成 26 年 6 月 27 日に、カザン連邦大学から先生が浜田キャンパスに来学されました。



異文化理解研修（ロシア・ウラジオストク）

【研 修 先】ロシア海洋国立大学

【研 修 期 間】平成 26 年 8 月 1 日（出発日）～8 月 30 日（帰国日）

【プログラム内容】ロシア語授業／文化体験／映画・演劇鑑賞／現地見学（ルスキー島、博物館見学など）



異文化理解研修（中国・北京）

【研 修 先】北京外国語大学

【研 修 期 間】平成 26 年 8 月 2 日（出発日）～8 月 30 日（帰国日）

【プログラム内容】中国語授業／地域文化学習／京劇鑑賞／現地見学（万里の長城・故宮・天壇公園、和園など）



異文化理解研修（アメリカ・モントレイ）

【研 修 先】モントレイ国際大学

【研 修 期 間】平成 26 年 8 月 2 日（出発日）～9 月 1 日（帰国日）

【プログラム内容】英語授業／コミュニティ体験／現地見学（サンフランシスコなど）・ビーチパーティー



異文化理解研修（韓国・蔚山）

【研 修 先】蔚山大学校

【研 修 期 間】平成 26 年 8 月 3 日（出発日）～8 月 27 日（帰国日）

【プログラム内容】韓国語授業／文化体験（オンギ体験、韓国料理、テコンドーなど）
／現地見学（蔚山、慶州など）・ソウルツアー



中国・寧夏大学から学生が来学

平成 26 年 8 月 26 日～28 日の 3 日間、中国西北部に位置する寧夏回族自治区の寧夏大学外国語学院日本語学科から学生 14 名と先生が来学し、本学の学生と交流しました。



中国・安徽財經大学訪問

平成 26 年 9 月 11 日に、李曉東 NEAR センター長、小林明子国際交流センター長、事務局職員が中国・安徽財經大学を訪問しました。交流協定についてや、今後の学生交流や教員交流についても有意義な協議をすることができました。



東北師範大学東亜文明研究中心合同国際シンポジウム

平成 26 年 11 月 1 日浜田キャンパスにおいて、前年 9 月に学術交流協定を締結した東北師範大学東亜文明研究中心との合同国際シンポジウムを開催致しました。宇野重昭本学名誉教授の特別講演会のほか、東北師範大学と本学の研究者による報告が行われ、討論も活発に行われました。



インド・AIMS 来学

平成 26 年 11 月 27 日に、インド・AIMS から訪問団が来学しました。AIMS は、本学の海外企業研修（インド）の訪問先のひとつです。今回は日本の最先端企業と伝統的な産業の視察のために来日しました。島根では伝統産業の視察を行いました。



▲学長表敬



▲学生交流（ダンス）



▲学生交流（昼食）



▲体験授業



▲茶道体験



▲企業訪問（石州和紙会館）



▲企業訪問（亀谷窯業）



▲歓迎会

オーストラリア・グリフィス大学来学

平成 26 年 12 月 11 日に、オーストラリア・グリフィス大学で日本語を学ぶ 19 名の学生と引率者 2 名が来学し、学生交流が行われました。



▲到着



▲記念品授与



▲学長表敬



▲ランチ交流会



▲学生交流（銭太鼓）



▲浜田高等学校訪問



第14回 国際文化交流の夕べ

平成26年12月17日に、第14回国際文化交流の夕べを開催しました。

今年の第1部のメインゲストは、地域との繋がりを大切に、音楽を通して多くの方に「世界」に触れてもらいたいという思いから、県内在住の演奏家の方を「地域の音楽家」として二組お招きしました。

そのほかにも学生や留学生による歌・ダンス・ゲームなど、大学生と地域の皆さまとの交流を深めました。

第1部前半—学生団体によるパフォーマンス



▲吹奏楽部



▲韓国語サークルアンニョン



▲中国語サークル好好



▲アカペラサークルYellow Kite

第1部後半—地域の音楽家による演奏



▲「Duo・Affetti」の杉本さえみさん（フルート）と中山ゆき子さん（ヴァイオリン）

▲ピアノ伴奏 中村真弓さん



▲「江川太鼓」

第2部



▲職員によるハンドベル演奏



▲YOSAKOI「橙蘭」



▲ジェスチャーゲーム（交流の時間）



▲ダンス（交流の時間）



▲学生による歌



▲留学生のダンス

その他 浜田キャンパス

韓国文化祭 in はまだ

平成 26 年 12 月 20 日に、駐広島大韓民国総領事館主催の韓国文化祭 in はまだが開催しました。映画上映や韓国伝統芸能公演、来場者プレゼント抽選会などを行いました。



海外体験報告会

平成 27 年 1 月 14 日に、8 組 9 名の学生により海外体験が報告されました。昨年海外体験をした学生の発表を聞くため、本田学長をはじめ、学生、教職員が参加しました。

発表のあとは、報告者全員が参加して、パネルディスカッションが行われ、海外興味を持ったきっかけや海外体験を通じてどのような成長があったかなど、それぞれが意見を述べました。また、国内で参加できる国際交流情報なども共有されました。主な訪問先：ドイツ・フィリピン・アメリカ・東南アジア・インドなど。



▲報告会



▲パネルディスカッション



▲会場の様子

異文化理解研修（アメリカ・ハワイ）

【研 修 先】ハワイ大学

【研 修 期 間】平成 27 年 2 月 22 日（出発日）～3 月 22 日（帰国日）

【プログラム内容】英語授業／文化体験／現地見学（Polynesian Cultural Center, Iolani Palace, Hawaii Plantation Village, Japanese Cultural Center, Pearl Harbor など）



異文化理解研修（アメリカ）

出雲キャンパスでは平成8年からアメリカワシントン州にあるウェナチー・バレー大学とシアトル大学での研修を実施しています。今年度は2年次生12名が平成26年8月19日から8月31日まで研修に参加し、アメリカの看護や文化を体験しました。



【ESL（英会話）授業風景】

ESLではウェナチー・バレー大学専任教員による講義のほかに、ファーマーズマーケットでの英会話実践や、医療をテーマにした英語の寸劇を行い、語学力を身につけました。



【ウェナチー・バレー大学、シアトル大学 看護学部見学】

研修先のウェナチー・バレー大学とシアトル大学の看護学部を見学しました。実習室には幼児から高齢者までのシミュレーションモデルがあり、汗をかいたり表情が変わるなど、高性能なシミュレーションモデルに驚きました。



【医療機関、福祉施設見学】

総合病院や高齢者福祉施設、救急車運営会社など、様々な医療機関や福祉施設を見学しました。ウェナチー・バレー・メディカルセンターには通訳機能のついたベッドがあり、多民族国家アメリカを象徴していました。



【ホームステイ】

2泊3日でホームステイを行い、アメリカの人々の日常生活を体験しました。ホストファミリーと過ごした時間は学生にとって一生忘れられない思い出となり、帰国後もメール等で交流を続けています。

異文化理解研修（韓国）

出雲キャンパスでは平成 25 年度より韓国での異文化理解研修を実施しています。2回目となる今年度は、1 年次生 8 名が平成 26 年 8 月 19 日から 8 月 24 日まで、韓国大邱広域市にある啓明大学校と大邱韓医大学校での研修に参加しました。



【啓明大学校見学】

研修先の啓明大学校を見学しました。看護学部にはシミュレーション教育が実施出来る設備が整っており、看護教育の質の高さを感じられました。



【大邱韓医大学校附属病院見学】

鍼・灸を用いた治療の説明を受けた後、院内にある韓方薬の薬剤室や韓医体験センターを見学しました。韓医体験センターでは学生も鍼治療体験をさせていただきました。



【事前学習の発表】

啓明大学校と大邱韓医大学校の看護学生に、本学出雲キャンパスの紹介と日韓の看護教育制度の比較を発表しました。日本の看護教育制度についての質問をいくらか受け、日韓の制度の違いを改めて感じました。



【看護学生との交流】

啓明大学校と大邱韓医大学校の看護学生と交流し、互いの学生生活や文化について語り合いました。英語やジェスチャーでコミュニケーションをとれたことがうれしく、互いの言葉が分からなくても一緒に笑い合えました。



【伝統文化体験】

韓国の伝統衣装を着て、韓国の礼儀作法について3種類の礼を習い、その後、茶道体験をしました。日本ではなかなか着ることのない韓国の伝統衣装（チマチョゴリ）や、礼儀作法を体験でき貴重な時間になりました。

参加学生の感想

・韓国に着いて初めての食事はピビンバでしたが、そのときに感じたことは、「箸が重い」「想像をこえて辛い」ということです。韓国の箸は金属であるということは事前に調べて知っていました。しかし、いつも使い慣れている箸の重さとは全く異なるということは、韓国へ行ってみないと体験することはできません。韓国の食事は辛さも実際に食べてみないと分かりません。調べて知識を増やすことはもちろん必要ですが、その国の文化の中で体験し、実感することでよりいっそう、忘れられない知識となることが分かりました。

～異文化理解研修（韓国）報告書より抜粋～

アメリカ・南ユタ大学の学生との交流

5月14日に、南ユタ大学から学生・教員合わせて14名が松江キャンパスを訪問し、総合文化学科の「英会話A」履修生と交流しました。

松江キャンパスでは、日本の生活と家族、食生活などを学んでいる南ユタ大学の学生との交流を、平成22年から毎年行っています。



▲自己紹介&質問タイム



▲文化体験：けんだま



▲集合写真



▲文化体験：ダック・ダック・グース



▲スポーツ交流

海外語学研修（アメリカ）

松江キャンパスでは、ワシントン州立セントラル・ワシントン大学（CWU）と協力協定を1990年6月に締結し、交流を進めています。海外語学研修（サマープログラム）は、夏休みを利用してCWUに滞在し、語学研修や見学旅行を行います。

平成26年度は、8月6日から8月25日の約3週間実施され、23名の学生が参加しました。



▲CWUにて



▲授業風景



▲マリナーズ観戦



▲マウントレーニア登山



▲企業訪問



▲ファミリー訪問



▲ヤキマ川下り



▲お別れ夕食会



▲シアトル観光

【参加学生の感想】

- * 外国語を学ぶ上で何よりも大切なことは、伝えたいという気持ちだと分かった。
- * アメリカの良さを知ると同時に、日本の良さも再発見することができた。
- * 積極性が身につき、今後の勉強にも生かしたい。
- * たくさんの人との出会いがあり、この繋がりを大切にしていきたい。

～報告書からの抜粋～

アジア文化演習A（韓国、中国）

夏季休暇中に1週間、中国（5日間）と韓国（2日間）を訪問し、異文化演習をします。北京では、もちろん世界遺産の見学も行いますが、その他にも、市場や下町への訪問を通じて、あるいは民家での料理体験などを通じて、現地の人々とできるだけ交流を図ります。出発前に事前学習を数回実施し、帰国後は、異文化体験をテーマにレポートをまとめ、それに基づいた口頭発表をします。

平成26年度は、8月22日から8月29日に実施し、18名の学生が参加しました。



▲韓国・仁川の市場



▲故宮博物院の見学



▲八達嶺長城を歩く



▲中国の下町を散策



▲民家での料理体験交流



▲帰国後の成果発表

【参加学生の感想】

- *実際に海外に出てみることで、自分の国の文化と比較し、日本との同質性や異質性を感じることが出来た。違いを楽しむことこそ、海外へ行く意味であると考えた。今回の研修で、積極性を身に付けることが出来たように感じた。
- *今回の研修を通じて、自分たちの価値観を押し付け否定するのではなく、異文化として受け入れること、また自分で体験してみることに意味があると感じた。
- *現地の人とのコミュニケーションについて、初めはおどおどしていたが、韓国でも中国でもはっきりと話したり、質問や挨拶もできるようになった。他の受講者とも、最初は自分から壁を作っていたが、自分の意見を少しずつ言うこと出来るようになり、コミュニケーションの大切さを改めて実感した。

～帰国後提出のレポートからの抜粋～

島根県立大学・島根県立大学短期大学部
平成 26 年度 国際交流報告書

平成 27 年 3 月発行

編集・発行
島根県立大学 国際交流課

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
TEL:0855-25-9063 FAX:0855-24-2208
E-MAIL : kokusai@admin.u-shimane.ac.jp

平成 27 年 4 月 10 日

島根県立大学 浜田キャンパス

担当：キャリアセンター 松尾 哲也

電話：0855-24-2202

平成 26 年度海外企業研修報告会の開催について

1. 海外企業研修について

海外企業研修は、グローバルに展開する企業への訪問、現地大学生との交流を通じて、国際的視野の獲得と国際協調の精神を養う機会を提供し、グローバルな人材育成を目指し実施しています。

平成 26 年 9 月にインド共和国コース、平成 27 年 2 月にタイ王国コースの 2 コースを実施しました。各コースに参加した学生が研修を通しての成果報告を行います。

2. 日 時 平成 27 年 4 月 17 日(金) 5 限 (16:30~17:50)

3. 場 所 島根県立大学 講義研究棟 1 階 中講義室 5

4. 主催者 島根県立大学キャリアセンター

5. スケジュール

16:30	開会の挨拶
16:35	学長 挨拶
16:45	インド共和国コース 報告
17:05	質疑応答
17:10	タイ王国コース 報告
17:30	質疑応答
17:35	平成 27 年度 研修のお知らせ
17:45	閉会の挨拶

6. 出席者 両コース研修参加学生 学生・教職員

7. 参加方法 自由参加

8. 海外企業研修実施日程及び参加学生内訳（平成 26 年度）

○インド共和国コース：平成 26 年 9 月 7 日(日)～9 月 13 日(土)の 7 日間
10 名【浜田 C 10 名（3 年 2 名、2 年 8 名）】

○タイ王国コース：平成 27 年 2 月 22 日(日)～2 月 28 日(土)の 7 日間
7 名【浜田 C 5 名（4 年 1 名、3 年 1 名、2 年 3 名）、松江 C 1 年 2 名】